

消化器病専門医研修ネットワークプログラム

1 はじめに

プログラムリーダー 沼津市立病院 消化器内科部長 篠崎正美

静岡県東部地区は人口 100 万人を超えていますが、中西部と比較すると、病院数は少なく医師数も絶対的に不足しています。この研修プログラムをご覧になることにより、情熱に燃えた若い先生たちに多数来ていただき、地域医療の活性化が達成されることを目指します。



2 特徴

病院紹介を見ていただければ、お分かりになると思いますが、各施設がそれぞれ個性を発揮しています。胃癌や大腸癌や IBD などの消化管疾患の内視鏡診断と診療、胆膵の ERCP を中心とした診断と治療、肝炎や HCC などの肝疾患診療、消化器癌の化学療法、総合的・包括的な診療、などです。各施設での創意に満ちた有意義な研修を受けることにより、「どんな疾患にでも対応できる優秀な消化器内科専門医が誕生する」と自負しております。

3 目的

どの施設で研修を受けようと、最終目標は消化器内科を専門とする包括的・全人的な医療を実践できる内科医師の育成です。患者さんはもちろん、コ・メディカルとのコミュニケーションも充分にとり、包括的・全人的な医療が実践できるよう我々の仲間として研修していただきます。

4 目標

「知識」「手技・治療」「判断」「症例経験」について高い到達レベルを目指し、消化管疾患や肝・胆道疾患、膵疾患、腹腔・腹壁疾患を十分に経験していただきます。消化器の一般的な処置から腹部エコーや内視鏡検査はもちろん、内視鏡の治療手技などカリキュラムガイドラインを参考に一つ一つ丁寧に経験していただきます。症例や治療手技の病院ごとの特徴については「8 病院群実績」を参考にしてください。

また、申請要件である総会ポストグラデュエイトコース、支部教育講演会、JDDW 教育講演に出席していただくとともに、症例報告なども経験していただきます。

5 研修カリキュラム

『消化器病専門医研修カリキュラム』に準拠した研修を行います。

6 研修例

- 1) 研修は複数病院（2病院以上）で行います。
- 2) 基本的に、一つの病院での研修期間は1年間となります。

ただし、必要に応じて研修期間の延長・短縮は可能です。

3) 研修先病院の調整は、研修医の希望を配慮し個別に行います。

【例】

1年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	〇〇病院											

2年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	△△病院									□□病院		

3年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	□□病院						〇〇病院					

4年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	〇〇病院				試験	○病院	発表	◇◇病院				

7 研修病院群

伊東市民病院

専門医 川合耕治 (1984年 自治医科大学卒)

当院は温泉と海で有名な伊東市とその周辺地域で唯一の総合病院です。対象人口約10万、地域に密着した総合医療、救急医療、保健・福祉を展開しております。消化器内科診療は現在2名の医師が中心に実践しています。都市の大病院と違って症例数は必ずしも多くありませんが、平成24年度でみると食道・胃・大腸癌の内視鏡治療(ESD・EMR)は約60件、肝胆膵の内視鏡治療は約150件を実施しました。複数疾患を抱えた患者様が多く、全人的・包括的な医療に根ざした専門診療というスタンスで消化器診療に関わっております。病床数250と比較的コンパクトな施設ですので、他科との連携が容易で全職種スタッフの一体感も売りの一つです。

国際医療福祉大学熱海病院

指導医 北洞哲治 (1973年 慶應大学医学部卒)

専門医 北洞哲治 (1973年 慶應大学医学部卒)

当院は、医指数73名、ベッド数269の総合病院であり、ICUや透析室の整備はもとより、PET-CTをはじめ、64列マルチスライスCT、血管造影(アンギオ)装置などの最新医療機器を導入しております。当院消化器内科は、熱海市、伊東市、神奈川県湯河原町を中心に消化器疾患(肝胆膵および消化管疾患)の診療しています。

研修医の週間日程は、1～2回の外来のほか腹部エコー、上部内視鏡です。午後は下部内視鏡、ERCP、アンギオ、穿刺ドレナージ、穿刺生検、RFAなどを行います。入院受け持ち患者数は5～6人程度で、週1回の症例カンファレンスを行います。当院で研修により、治療手技(胃腸のEMR、緊急止血術、EST、ERBD、PTCD、食道・胃静脈瘤のEVL、肝細胞癌のTACEやRFAなど)の専門医に必要な修練ができます。

静岡県立静岡がんセンター

指導医 小野裕之(1987年 札幌医科大学卒)

専門医 小野裕之(1987年 札幌医科大学卒) 小野澤祐輔(1992年 弘前大学医学部卒)

森口理久(1996年 京都府立医科大卒) 町田 望(1999年 旭川医科大学卒)

滝沢耕平(1999年 札幌医科大学卒) 他

当院は2002年9月に富士山と駿河湾を望む丘陵地に開院したがん診療連携拠点病院です。全床開棟時615床を有し、「患者さんの視点の重視」を基本理念とし、①がんを上手に治す、②患者さんと家族を徹底支援する、③成長と進化を継続する、の3つを患者さんへの約束として最善な医療の提供に取り組んでいます。

当院の消化器内科は、頭頸部、食道、胃、胆嚢、膵臓、大腸の悪性腫瘍に対する抗がん剤や放射線などを用いた内科的治療を行っています。最善の治療法を決定し実行するために、部内の話し合いだけでなく、治療に関わる他科の医師と定期的にカンファレンスを行っています。また、看護師やその他医療スタッフとの連携を大切に、スタッフ間の情報の共有と意識の統一を心がけています。

また、新たな治療法の開発・確立を目指した臨床試験や新薬の治験にも積極的に取り組んでいます。

沼津市立病院

指導医 後藤信昭(1975年 千葉大学医学部卒)、篠崎正美(1980年 千葉大学医学部卒)

専門医 久保田教生(2000年 金沢大学医学部卒)、宮城島大輔(2004年 浜松医科大学卒)

当院消化器内科は、消化器疾患全般を診療している静岡県東部の代表的な施設です。消化管疾患のみならず、肝胆膵領域の診療に力を入れています。

研修医の週間スケジュールは、午前中は1回の外来、2回の腹部エコー、2回の内視鏡です。午後は大腸内視鏡、ERCP、腹部血管造影、穿刺ドレナージ、穿刺生検、RFAなどを行います。入院受け持ち患者数は5-10人で、月曜に綿密な全症例のカンファレンスを行います。当院で研修することにより、ほぼすべての治療手技(胃腸のEMR、緊急止血術、内視鏡的乳頭切開術と胆汁ドレナージ、食道・胃静脈瘤治療、肝細胞癌のTACEやRFAなど)に習熟でき、専門医取得の早道となります。

医療法人社団 秀峰会 川村病院

日本消化器内視鏡学会指導医 川村統勇(1971年 東京慈恵会医科大学卒)

日本消化器内視鏡学会専門医 岩本美智子(1997年長崎大学医学部内科系大学院卒)

当院は、消化器を中心とした地域密着型の急性期病院です。上部・下部・胆道合わせて月600例以上の内視鏡検査及び治療を行っています。

ESD(内視鏡的粘膜下層切開剥離術)は、食道・胃・大腸を行っています。胆道もEST, ERBDを積極的に行い、胆石症の開腹術を極力減らしています。炎症性腸炎の専門外来を開設し、顆粒球除去療法、レミケード等による最新治療を行っています。

当院では、内視鏡を中心とした消化器内科のトレーニングを行います。3ヶ月間で上部下部合わせて300例をトレーニングして、一応自分で検査が出来るようにしたいと考えております。6ヶ月ならばポリペクトミーが自立して出来るようになることを目標にします。

富士宮市立病院

富士宮市立病院は富士・富士宮地域の医療全般を担う 350 床規模の病院です。基本的に研修は現場重視の研修であり、研修医の受け持ち患者は 15 人程度です。

消化器内科で 54 床の病棟を持っていますが病棟は 90%以上が充足され、日々の生活はハードかもしれません。

カンファレンスにて意見交換を積極的に行っており、月曜日に消化器カンファレンス、水曜日に緩和カンファレンス・リハビリカンファレンス・内科全体カンファレンスを行っています。また検診等の胃・注腸透視読影を火曜日に行っており、上下部内視鏡検査は毎日持ち回りでを行っています。

その他にも月数回の総合診療カンファレンスで症例検討や各科からのレクチャーを行っており、病院内での他科とのつながりは密で働きやすい環境が整っています。

激しく日常診療をこなし経験をつみたい研修医の方はぜひ富士宮市立病院にお越し下さい。

共立蒲原総合病院

順天堂大学医学部附属静岡病院

8 病院群の実績（症例数、平成 26 年 1 月～12 月）

	伊東市民病院 (入院症例数)	国際医療福祉大学熱海病院 ※	県立静岡がんセンター	沼津市立病院	川村病院 ※	富士宮市立病院	共立蒲原総合病院	順天堂大学医学部附属静岡病院
日本内科学会教育病院	—	○	—	○	—	○	—	○
日本消化器病学会認定施設	○ (関連施設)	○	○	○	—	○ (関連施設)	○ (関連施設)	○
日本消化器内視鏡学会認定施設	—	○	○ (指導施設)	○	○ (指導施設)	○	○	○
日本肝臓学会認定施設	—	—	—	○	—	—	—	○
腹部エコー	11	3379	6941	5372	1628	3582	3026	
造影エコー	0	0	134	122	0	12	0	
胃内視鏡	260	2832	9444	1913	4386	2036	5613	
ESD/EMR	94	22	478	8	25	13	3	
EIS/EVL	8	3	22	46	6	49	11	
大腸内視鏡	154	1035	4448	981	3126	1141	900	
ESD/EMR		267	1388	145	500	346	284	
ERCP	24	6	377	224	22	166	35	
腹部血管造影	14	10	451	99	13	28	61	
PTCD・PTGBD	12	8	189	25	4	22	33	
EPT	0	20	127	99	4	0	0	
ENBD	4	0	201	75	21	7	0	
肝生検・腫瘍生検	9	1	56	23	0	0	8	
RFA	0	0	34	59	1	4	2	

※は前年実績

9 研修期間

原則として4年間とする。

10 プログラム参加者の要件

内科認定医等を取得し、消化器病専門医取得の意思があること。

11 処遇

- 1) 身分
- 2) 給与
- 3) 健康保険等の福利厚生制度
- 4) 医師賠償責任保険
- 5) 休日等
- 6) 宿舎
- 7) 学会費用

原則として、研修する病院の規定に従う。

12 プログラム修了後の進路

- 1) 病院群への就職の機会を優先的に得られる
- 2) 関連する大学医局への入局へ推薦することが可能

13 プログラム運営委員（◎：プログラムリーダー）

沼津市立病院 消化器内科部長 篠崎正美（1980年 千葉大学医学部卒）

第一内科（現腫瘍内科）に所属し、主として肝胆膵領域の画像診断と実技としての ERCP や PEI に携わってきました。1988年に沼津市立病院に赴任してからは一転して、肝臓病を中心に症例を重ねてきました。B型肝炎の核酸アナログ治療やC型肝炎のペグ IFN 治療や肝細胞癌の RFA においては日本のトップクラスと自負しております。現スタッフは8人ですが、後藤院長と私以外は、内視鏡を専門にしています。ERCP や緊急止血術や IBD 診療が充実しています。内視鏡をやりたいが、肝臓病も診てみたい、と思う研修医の皆さんを歓迎します。



伊東市民病院 診療部長 川合耕治（1984年 自治医科大学医学部卒）

日本消化器学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医、日本内科学会専門医

市立伊東市民病院消化器内科の川合耕治と申します。当院は伊東市開設、管理運営を公益社団法人・地域医療振興協会が委託されているユニークな病院です。基本的には general physician としての自覚をもって subspecial に消化器内科（内視鏡治療）診療に従事しています。大病院で専門医として10年余勤務した後に、当院に開院より勤務して11年になりますが、海あり、山ありの美しい地域で大変楽しく毎日の診療を送っております。消化器内科スタッフは私を含め3名、消化器癌の内視鏡治療は上部（食道・胃）、下部（大腸）とも年間30件程度ずつ、胆・膵内視鏡治療は同150件を実施しています。

静岡県立静岡がんセンター IVR科医長 森口理久(1996年 京都府立医科大学卒)

認定・専門医：内科学会認定医、消化器病学会専門医、肝臓学会専門医、医学放射線学会認定医、がん治療認定医、認定産業医、IVR学会専門医

所属学会等：内科学会、消化器病学会、肝臓学会、医学放射線学会、臨床腫瘍学会、IVR学会、肝臓研究会、肝がん分子標的治療研究会、リザーバー研究会

経歴：平成8年 京都府立医科大学卒業 第3内科（現：消化器病態制御学）入局

平成15年 京都府立医科大学大学院卒業 医学博士取得

平成19年～静岡がんセンター 勤務

ひとこと：当科で扱っている肝臓治療は、ラジオ波焼灼療法・エタノール注入療法、肝動脈化学塞栓術、肝動注化学療法（リザーバー含む）、全身化学療法（ソラフェニブ）と多岐にわたり、症例も非常に多く、大変忙しい毎日です。

学会にも積極的に参加し、新規抗がん剤の治験や多施設共同臨床試験にも多く参加しています。

静岡県立静岡がんセンター 副院長兼消化器内科部長 安井博史(1997年滋賀医科大学卒業)

京都府福知山市出身。H9年に滋賀医科大学を卒業し、一般消化器内科を8年行うが、抗がん剤治療の無知さを痛感し、H16年に静岡がんセンター消化器内科の門を叩く。

現在当院は、消化器内科スタッフ8人とレジデントが力を合わせて消化管（頭頸部から肛門まで）の抗がん剤治療を専門に行っています。がん治療は、抗がん剤治療のみに限らず、痛みなどの疼痛緩和、ならびに心のケアも含めた癌に関わる総合的な治療を行うことが必要とされ、患者のみでなくその家族も含めた支援していくことが大切です。よってがん治療は、医療の知識や技術が必要であることは言うまでもありませんが、やはり人間力が一番大切です。



川村病院 院長 川村統勇(1971年 東京慈恵会医科大学卒)

消化器外科出身ですが、大学では内視鏡部専任医師として、上部・下部・胆道の内視鏡診断治療を主な仕事としていました。現在でも、慈恵医大内視鏡科客員教授として、週一回大学で後輩医師達と勉強しています。

新しい知識を取り入れて、川村病院での治療に役立っています。

当院では、食道静脈瘤硬化療法、EUSはもちろん、食道・胃・大腸のESD（粘膜下層切開剥離術）も積極的に行っています。



国際医療福祉大学熱海病院 教授 北洞哲治(1973年 慶應大学医学部卒)

日本消化器病学会評議員・専門医・指導医、日本消化器内視鏡学会評議員・専門医・指導医、日本消化器免疫学会評議員、日本臨床栄養学会評議員・指導医、日本内科学会認定医

消化器内科領域全般にわたり診療を行い、特に胃・腸疾患を専門としてきました。胃・腸疾患はストレスをはじめとする心身の連携作用の大きい病気が多く、治療の役割は“治す”と同時に“治る”ことにあり、診療の基本を常にここに置くよう心がけています。そうしたことのうえで最新の医療、医学の知識、技術を用いた診断、治療を行っています。